

「いのちと地域を守る 外国人入居者 防災学ぶ 賃貸会社が米沢でイベント 地震の仕組み、消火器の使い方… 共助力のアップ目指す」

掲載日:2025年10月06日, 面名:EA0XX0, 記事ID:K2025100600000009300

(C)河北新報社



入居者
心肺蘇生を体験するベトナム人

賃貸会社が米沢でイベント

全国で賃貸住宅サービスを手がけるビレッジハウス・マネジメント（東京）が、外国人入居者を対象にした防災イベントを9月末に東北で初めて山形県米沢市で開いた。地元の防災士は「地域全体の共助の力を強めるため、外国人の防災力向上は大切だ」と歓迎する。

外国人入居者 防災学ぶ

いのちを守る
地域と

「揺れています、頭を守つ
て！」。スタッフの指示を受
け、同社が管理する市内の賃
貸住宅2棟で暮らすベトナム
出身の37人が一斉に机の下に
身を隠した。多くは来日1
年目の技能実習生だ。

市内の企業で働く30代前半
男性は、日本で暮らして通算
5年になるが、防災訓練への
参加は初めて。「母国では
水害は起きるが、地震や津
波はない。地震の仕組みや消
火器の使い方を知らなかつ
たので、勉強になつた」と話
す。

地震の仕組み、消火器の使い方… 共助力のアップ目指す

山形県によると、県内に住
む外国人は2024年末現在
で1万312人おり、10年前
に比べて4000人以上増加
した。9月27日の訓練に参加
した県防災士会の鈴木美音副
代表は、「外国人が増える中、
ほかの住民と助け合つたために
も防災を学んでもらう必要性
が増している」と語る。

ビレッジハウス・マネジメ
ントは、全国で約3000棟
の建物を管理する。主に平均
築50年の旧雇用促進住宅を改
装し、平均約3万7000円
と割安な価格で販売している。
このため、外国人従業員の
社宅として利用されるケース
が増え、外国人の入居者は全
体の約3割弱を占めるまでに
なった。生活での困りごとを
相談できるコールセンターも
開設。英語やベトナム語など
5カ国語に対応しており、好
評を得ている。

同社は2022年の兵庫県
での開催を皮切りに、防災イ
ベントを外国人入居者が半数
以上を占める物件を中心に展
開してきた。防災士による地
域の災害リスクの解説や、ご
みの出し方など生活マナーの
説明が主な内容で、日本人入
居者との交流を増やそうとバ
ーベキュー・パーティーを催
したこともある。

同社東北支社の塙本誠一支
社長は「各地でイベントを開
き、入居者に安心安全を届け
る呼び水にしたい」と語る。
今後は行政や他の企業とも協
力し、取り組みを広げたい考
えだ。

（中沢昂大）